

野洲市大篠原地域環境保全対策委員会 平成 30 年度第 1 回会議 会議結果

1. 開催日時 平成 30 年 10 月 24 日 (水) 14 時 00 分 ~ 15 時 10 分
2. 開催場所 野洲クリーンセンター 2 階 研修室
3. 出席委員 市川委員長、岸本副委員長、橋本委員、南委員、網野委員、飯田委員 以上 6 名
4. オブザーバー 滋賀県南部環境事務所 卯田所長
5. 事務局 遠藤環境経済部長 他 8 名
6. 傍聴者 なし

7. 会議結果 意見、質疑等 (・各委員 市事務局)

議事(1) 旧クリーンセンター周辺土壌中ダイオキシン類モニタリング調査の結果報告について
周辺土壌中ダイオキシン類モニタリング調査の結果、旧センター解体工事の際に実施した法面土壌の掘削除去により、恒久対策は了とする旨を説明した。

- ・恒久対策を了とすることが了承された。

議事(2) ばいじん処理物の水銀の状況について

再発防止計画の実施状況及び排ガス水銀の状況について、クリーンセンターより説明、水銀使用廃製品の回収取り組みについて、環境課より説明した。

- ・運転管理値の 0.0015mg/L を下回るのは 3 分の 1 くらいであり、この状態が続いている。運転管理値を下回る値が続いてほしいが、どう判断すればよいか。

運転管理値を下回る安定した施策には、一つは入口対策として、水銀使用廃棄物をごみに混ぜないように市民に周知する。もう一つは安定した薬剤の添加であり、建設運営事業者で研究、検討している。また、監視の点から排ガス水銀測定を連続で、現場での原灰の水銀含有量の分析を毎日実施している。

- ・運転管理値を超えないようにということだが、現実的に入口の水銀含有量が高くなる状況がしばしばあるので、なかなか今の状況では難しいと思う。
- ・この運転管理値は、そもそも他のクリーンセンターと比べると守れる範囲内で決められたはずであり、だとしたら野洲クリーンセンターはそれ以下にしてほしい。まだ 20 年程あるので、前回のような操業停止にならないように、運転管理値を守る努力をして頂きたい。研究、技術開発し、何年後にはきれいに運転管理値内に収まっているようお願いする。

現在、運転管理値内に収まるよう技術検討しており、今はこの方法がよいと言える状況にはないが、より安心して頂ける方法を検討しているところである。

- ・連続監視している排ガス中水銀濃度は、原灰の水銀の挙動とうまくリンクしているように思う。焼却でガスが出た後、灰が出てきて処理していくので、例えば、排ガスの水銀濃度が高くなった時の灰を別枠で取って、別途個別処理をした上で、チェックして外に出すことも出来ると思うが、対応はしているのか。

キレート 10% で押さえ込む形で運転しており、別途処理はしていない。

- ・排ガス測定値と原灰中の水銀濃度との対応がとれていることが分かってきたが、どうしても原灰で変動があるのなら、キレート剤の添加量をガスの変動に合わせて変化させるというようにより安定して溶出を抑えるように処理をすることも、今後検討できると思う。

原灰、排ガスの濃度によってキレート剤の添加率を変えるのも一つの方法かと思う。現状 10% と決められた中で処理しており、検討し提案させて頂く。

- ・大篠原自治会としても、毎月データを確認しているが、収まらないかと思いながらよとしている状況である。

- ・7 月から水銀使用廃棄物を回収されているので、もう少しデータを集めて、回収の効果を検証できればよいと思う。

統計を取り報告させて頂く。

その他 平成 30 年度 動物 (両生類/タゴガエル) 現地確認調査結果について

平成 30 年度に実施したタゴガエルの春季及び夏季調査の結果を報告した。

以上